

風土工学とは、
風土とハーモニーし、風土を活かし、地域を光らす
個性豊かな地域づくりのテクノロジー



特定非営利活動法人 風土工学デザイン研究所

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-23 宗保第2ビル7F

TEL 03-5283-5711 FAX 03-3296-9231

<http://www.npo-fuudo.or.jp> e-mail: design@npo-fuudo.or.jp

風土工学 シーニックバイウェイ

六感で地域を感じ感動する
道づくり・地域づくり

特定非営利活動法人 風土工学デザイン研究所

六感で地域を感じ感動する道づくり・地域づくり 『風土工学・シーニックバイウェイ』



景色Scenic

美しい景色の背景にはその地域固有の歴史文化や暮らしが息づいています。

まわり道Byway

道は地域をつなぎ、風土をつないでいきます。風土を感じとると道にも意味が生まれます。

地域は視覚だけでなく六感全てで感じるもの



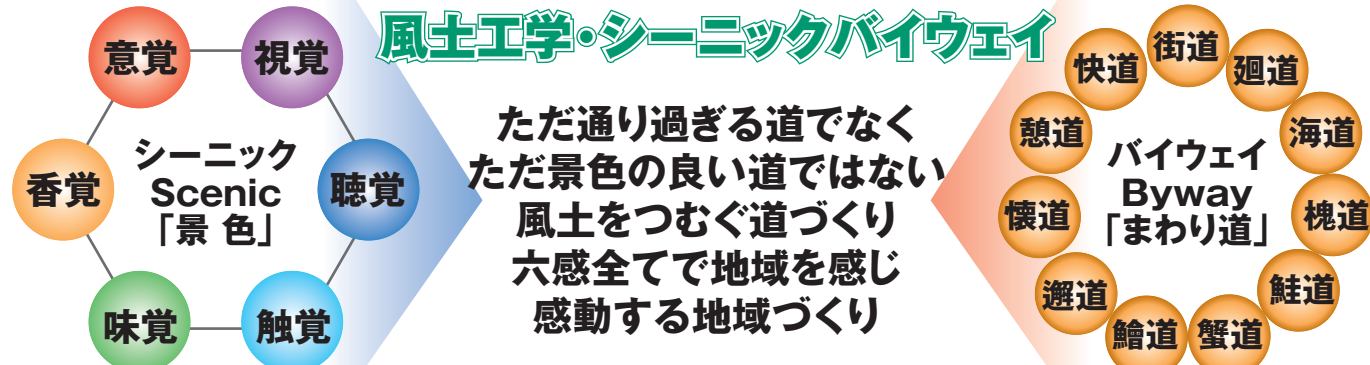
六感で地域を感じ感動させる仕掛けづくり

地域風土を感じることで、様々な意味が生まれる「かい道」

- 街道: 中央と地域を結ぶ広い道
- 廻道: まわり道、小道、わき道
- 海道: 海の道、海に見える道、潮騒の道
- 槐道: アカシア並木のロマンの道
- 鮭道: 秋味を味わう食通の北の道
- 蟹道: カニの食道楽の道
- 鱈道: 魚料理を堪能する道
- 遡道: 思いがけないものと出会える道
- 懐道: なつかしいふるさとの原風景の道
- 憩道: こころやすらぐ憩いの道
- 快道: 心うきうき愉快的道

風土工学・シーニックバイウェイ

ただ通り過ぎる道でなく
ただ景色の良い道ではない
風土をつむぐ道づくり
六感全てで地域を感じ
感動する地域づくり



風土工学による魅力ある道づくり・地域づくり 『地域の風土を科学する・風土工学』

風土工学の調査手法

～住民の心情や感性を科学し、地域への誇りを醸成する風土工学～

1
Step

地域風土を形成する風土資産

(風土資産体系)
地圏(山、岩石、地質など) 水圏(海、川、滝など)
気圏(気候、日照、風など) 生物圏(動物、植物など)
生活産業圏(交通、地名、土地利用など) 歴史文化圏(文化財、祭礼、伝承など)

2
Step

地域の魅力を掘り起こす風土資産調査

(文献調査・現地調査・ヒアリング調査)

3
Step

風土の宝・再発見・認識の共有

(風土絵地図・風土記の編集)

4
Step

地元の意識、他地域の評価(市場性)を踏まえ、地域の価値観を科学する

- (1) 認知度・関心度調査 (認知・関心の相関図)
- (2) 地域イメージ調査 (連想階層構造図)
- (3) ローカルアイデンティティ四窓分析



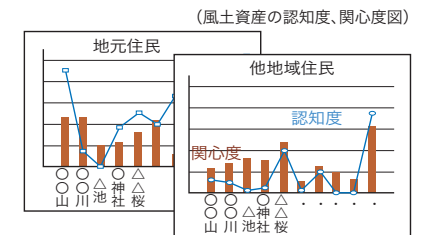
5
Step

地元住民の協働と参画

地域の魅力への気付き、誇り意識の醸成を図り、地域住民と一緒に地域づくりを図る

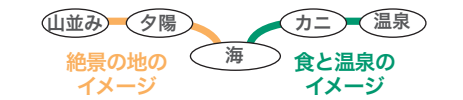
① 風土資産の認知度・関心度調査

認知しなくとも関心を示すものがある。



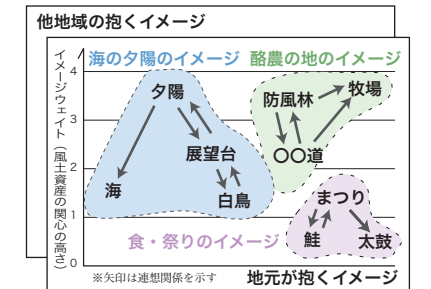
風土資産の関心の地域差を分析する

② 地域イメージ調査



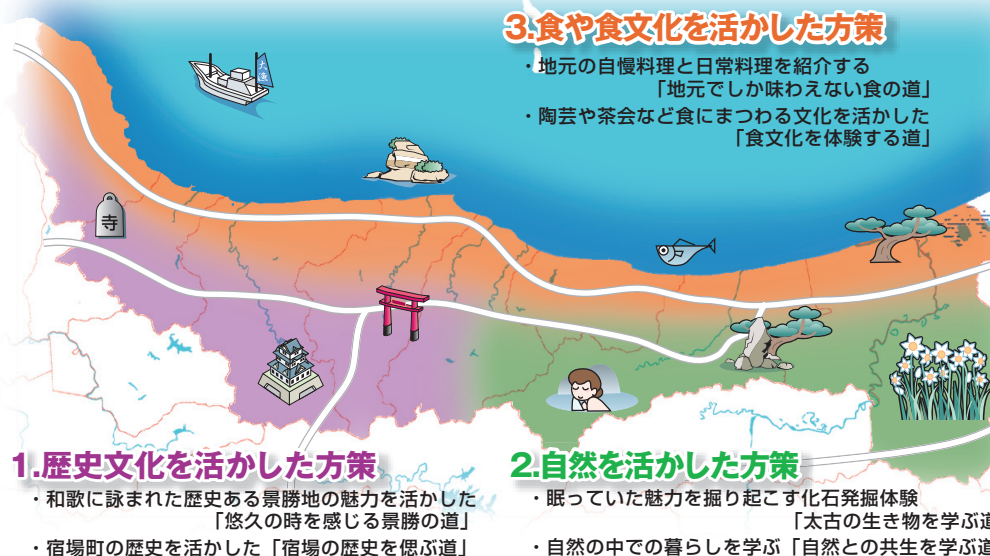
地域イメージにより連想するものが異なるため、風土資産の連想関係から抱いている地域イメージを構造化する。

(地域イメージ連想階層構造図)



地元の価値観や誇り意識、市場性の高い地域の魅力を分析する

地元の意識、他地域の評価(市場性)を踏まえて地域の魅力をつむぎ、六感に訴えかける方策創出



③ ローカルアイデンティティ四窓分析

認知度・関心度調査、地域イメージ調査の結果を踏まえ、地域内外の視点で地域を見つめなおす四窓分析。

潜在的に地域に存在する資産を掘り起こし、地域住民の誇りにつなげ、地域の活性化を図っていくためには、Ⅰの領域拡大とⅡ、Ⅲ、Ⅳの領域をⅠに近づけていく必要がある。

(四窓分析の図)

		地元の居住者	
		存在・概要を把握している	存在・概要を把握していない
他地域の居住者	存在・概要を把握している	Ⅰ みんな知っている 地域内外の人々が良さを分かっている領域	Ⅱ 地元住民は特に意識していない 他地域の人々にはよく見えているが地域内の人々が気づいていない領域
	存在・概要を把握していない	Ⅲ 地元住民は強く意識している 地域の人々は良く分かっているが他地域の人々が知らない領域	Ⅳ 誰も意識していない 地域内外の人々に知られていない未知の領域潜在的な地域の個性の領域